

島田市議会 若者のまちづくり参画等に関する特別委員会行政視察報告

若者のまちづくり参画等に関する特別委員会委員長 大石 節雄

若者のまちづくり参画等に関する特別委員会では、令和元年11月14日に行政視察を行った。当特別委員会は、「次世代を担う高校生などといった若者と議員とが意見交換等を行い、若者が政治やまちづくりに参画する機運を醸成するため、その方法を検討すべく」設置された。今回は、高校生の市政へのかかわり、高校生の意見を市政へ反映する方法について、当委員会において参考とするため、富士宮市高校生議会について行政視察を実施した。令和元年11月14日に、静岡県富士宮市を訪問し、調査を行った内容を次のとおり報告する。

令和元年11月14日（木）午前10時30分～午後12時

富士宮市役所 全員協議会室

調査事項 「富士宮市高校生議会について」

今回視察した静岡県富士宮市は、人口132,347人、面積は389.08平方キロメートルで富士山西南麓に位置し、富士山の御神体として平安初期に造営された富士山本宮浅間大社の門前町として発展してきたまちである。

また、富士山の雪解け水を源とする豊富な湧き水や、緑溢れる朝霧高原、日本三大急流の一つである富士川など、豊かな資源を背景に多面的な産業が発展している。富士山を初めとする恵まれた自然環境に生まれ、生産される多様で特色のある食資源によって、豊富な地元食材を生かした食のまちづくりを推進し、さらに総合計画などでは、世界遺産である富士山を中心としたまちづくりを進めている。

富士宮市では、高校生議会の開催を平成19年度から開催しており、今年度12月14日に予定されている高校生議会で13回目の開催となる。この高校生議会は、義務教育を終え、市の教育委員会との関わりが薄れた高校生と接点を持つための手段として、各高校との相談の上、市内5つの高等学校の協力により、若い人の意見を市政に取り組みするため、前市長の発案により開催されたことが始まりであった。

開催について、前年度には開催日程を各学校へ通知し、現年度に入り開催通知を送付し、高校生議員を選出してもらう。高校生議員は、当初は富士宮市内の5つの高校から3人であったが、平成28年度から富士宮高等専修学校から2人を加え、現在合計17人で構成している。各校持ち回りで、議長校を選定し議長、副議長を選出しているとのことであった。一般質問の取りまとめや議場での所作等のリハーサルについては、開催日の3ヶ月ほど前から高校生議員への説明を行っている。

高校生議会を開催する効果として、高校生にとっては、富士宮市が現在の市政、議会の制度、仕組みを学ぶことができる。対して、市としては、今後の市政運営に高校生の意見を反映することができるとのことであった。高校生議員の質問は、自身の体験や経験に起因するものが多く、高校生議会での経験をきっかけに富士宮市職員となった人もいるとのこと、高校生が市政やまちづくりに関心を持つ大きなきっかけとなっている。高校生議会が出た意見は、市政へ直接反映されたものもあることや、市議会定例会において、議員が高校生議会が出た意見を踏まえた質問をするなど、高校

生の意見が市政に大きく反映されているとのことであった。

委員から、「例えばどのような意見が反映されたのか」との質問があり、昨年の高校生議会において質問の中で、道路標識や右折レーンの設置についての意見があった。それについては、建設系の部署ですぐに対応をしたとのことであった。

今後については、高校生の質問、意見の実現は担当課任せで終わっているとのことであるため、高校生議会で出た質問内容を市がどのように取り扱い反映していくべきか検討が必要であるとのことであった。

富士宮市の高校生議会は、当局が主催であるため、議員主導で行いたい当委員会とは異なるが、高校生の募集方法や高校生の市政への関わり方については、参考となる部分が多かった。また、高校生の意見を市政へ反映することについては、当委員会でも課題と感じている部分である。富士宮市においては、一部ではあるものの高校生の意見を市政に反映できていることは、とても参考になり、当委員会でもこの課題についてより一層検討を行っていきたい。高校生など若者の意見を聞き、市政や議員活動に反映していく必要があり、若者の意見を広く拾えるような仕組みや場づくりが必要であると改めて感じた。